

令和6年「相模の大凧まつり」大凧の題字が決定！

本市の歴史ある「相模の大凧まつり」（令和6年5月4日（土）、5日（日）に実施予定）を皆様により親しみ、楽しんでもらえるよう、相模の大凧まつり実行委員会では大凧に書く題字を広く募集しました。応募総数270件（題字の総数は183作品）の中から選考を行った結果、題字を「稀風（きふう）」に決定しました。決定した題字は、同実行委員会実行委員長の八木亨氏ほか関係役員から、市長に対し、題字決定の報告と揮毫（きごう）の依頼が行われます。

1 決定題字

入選：『 **稀 風** 』（きふう）

意味：相模原市市制施行70周年。

人生に例え、70歳の「古希（稀）」を祝って「稀風」とする。

作者：関野 春雄（せきの はるお）さん（1名 市内在住）

（なお、佳作として『平和』（へいわ）（13名 市内在住）が選ばれました。）

2 題字の報告

日時：令和5年12月26日（火） 午前9時30分から

場所：市役所本庁舎2階 特別応接室

3 題字書き

凧製作過程の1つである題字書きの様子を報道機関に公開します。

取材を希望される場合は、題字書き2日前までに問合せ先にご連絡ください。

<日程(予定)と会場>

上磯部大凧保存会	令和6年3月10日(日)	相模の大凧センター(れんげの里あいそ内) 所在地:南区新戸 2268-1
下磯部大凧保存会	令和6年3月24日(日)	
勝坂大凧保存会	令和6年2月25日(日)	新磯小学校体育館 所在地:南区磯部 1028-5
新戸大凧保存会	令和6年3月17日(日)	相模の大凧センター(れんげの里あいそ内) 所在地:南区新戸 2268-1

※日程は変更となる可能性があります。

【問合せ先】

新磯まちづくりセンター
046-251-5242

【相模の大凧について】

(1) 歴史

大凧の歴史は古く、天保年間（1830年頃）からといわれ、本格的に大凧行事として開催されるようになったのは明治中期からです。当初は、個人的に子供の誕生を祝って揚げられましたが、次第に豊作祈願、若者の意志や希望、国家的な意義を表徴するものとして地域的な風習となり、現在では観光行事として親しまれています。

平成22年4月に相模原市指定無形民俗文化財に「相模の大凧揚げ」、それを継承する団体として「相模の大凧文化保存会」が指定されました。

一般的に、凧には絵や文字が描かれますが、「相模の大凧」には、その時々々の世相を反映したものが大凧の題字（大凧に書かれる文字）として書かれます。漢字2文字で、右上の太陽の赤と左下の大地の緑を表す色を使って書きます。

明治から昭和初期に至るまでの題字を知る手がかりは少なく、断片的にしか分かっていませんが、その題字を見ると当時の世相が伝わってきます。

「相模の大凧揚げ」は、新磯地区を挙げて「相模の大凧まつり」として、相模川河川敷の新戸スポーツ広場等4箇所で行います。

季節は大地に新緑の芽吹く頃、澄み渡った大空の下、春風に乗って、大凧が揚がる光景は圧巻です。

(2) 最近の題字と理由

- 平成27年（2015）『隼風』 小惑星探査機「はやぶさ2」の打ち上げ成功を喜び、5年後の地球への帰還を祈願するとともに、幾多の困難を乗り越えた初代「はやぶさ」のように、宇宙の彼方まで相模原市が躍進し、人々に夢と希望を与える一年であってほしいと願いを込めて
- 平成28年（2016）『福風』 人や友達、家族の幸福が、「大凧」という一つの大きな幸福となって空高く舞い上がり、風に乗せて、日本中・世界中へと幸福を運びたいという思いを込めて
- 平成29年（2017）『輝星』 相模原市をホームタウンとするノジマステラ神奈川相模原のなでしこ1部リーグでの飛躍を祈念するとともに、すべての国が星の様に輝く明るい世界になるよう願いを込めて
- 平成30年（2018）『翠風』 翠風の“翠”は、この地域の美しい緑を表し、緑色は相模原市のシンボルカラーでもある。草木の新芽のように素直な心を持ち輝く子になってほしいという願いを込めて
- 令和元年（2019）『令和』 元号改正に伴い、新元号を題字とした（題字募集は実施せず）
- 令和2年（2020）『輪風』 東京オリンピック・パラリンピックの成功と世界平和の願いを青空高く舞い上がる大凧に込めて（新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止）
- 令和3年（2021）開催中止のため、題字の募集はせず
- 令和4年（2022）『命風』 コロナ禍の中で実感した「命」の大切さと絆や関係プレーの必要性を大凧にたくす（新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催中止）
- 令和5年（2023）『勝風』 災いに勝ち抜く頼もしい風が吹くことを祈念する